第13回がん患者大集会参加報告書

これからのがん医療が目指すもの
～患者の力をどう活かすか？～

日　時：2017年11月26日（日）　13時～16時
会　場：メイン会場 (東京)：東京医科歯科大学M&Dタワー
　　鈴木章夫記念講堂(東京都文京区湯島1-5-45)

プログラム

11時～がん患者団体等の展示ブース（会場のエントランスにて）

第1部　①特別講演「がんの治療を目指して」
　　シカゴ大学　中村祐輔先生
　　②講演：医師の部　「がん医療における患者力とは」
　　岐阜市民病院　澤祥幸先生
　　③講演：患者の部　「患者力を活かした活動報告」
　　・「“生き方を考える活動”を通して見えてきたもの」　宮本直治氏
　　・「がんのその後の人生設計」　阿南里恵氏
　　④アンケート結果報告
第2部　シンポジウム「患者力をどう活かすか」
　　コーディネーター：町永俊雄氏
　　シンポジスト　：中村祐輔先生, 澤祥幸先生, 宮本直治氏,
　　阿南里恵氏, 三宅智先生（東京医科歯科大学）
第3部　アピール文提出

担　当：<u>細胞検査士会</u>
三宅真司、阿部　仁、町田知久
濱川真治、忽滑谷昌平、中村　博
向山淳児、金室俊子、葉山綾子、
寺尾暁子、吉田志緒子、河原明彦
澁木康雄（途中参加）

第13回がん患者大集会に協力した細胞検査士会メンバーと浜中先生

●●●●●●参加者●●●●●●

事前登録者　約200名
当日参加者　約85名
オンコセラピー関係約25名
スタッフ、各団体関係者
約70名
細胞検査士会12名

●●●●●●●●●●●●●

当日は天候に恵まれ、メイン会場となる東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂には、9時の集合時間に多くの共催参加者が集合していた。

今回の大集会には、シカゴ大学医学部教授である、中村祐輔先生のご講演もあり、事前登録者・当日参加者・関係者等を含めて380名近くの参加者があった。また報道関係者も例年より多くみられた。

[写真撮影班]

細胞検査士会協力内容
9時集合　　17時解散
・各団体展示ブース設営、撤去協力
・参加者受付
・写真撮影

[展示ブースの様子]

細胞検査士会の参加者は12名で、9時のミーティング終了後、受付準備・写真撮影・展示ブースの設営、希望される団体の展示手伝い、そして集会終了後の片づけを担当した。展示ブースは今回8団体の参加があった。

学会で示説添付を行っている経験から展示作業は円滑に行われていた。受付について、最初は事前登録者の受付をCanps（Cancer Patients Support Organization)の事務局の方々と行い（2名）報道関係者の対応、主催者への連絡も担当した。また途中から当日参加受付の案内などさらに2名が担当した。

写真撮影は2名。事務局の方に撮影上の注意と、希望される撮影シーンを聞いて行った。昨年まで担当していた会場までの案内は、今年は他の協力団体が全ての案内を担当した。毎回参加者からは、化粧室・休憩所・自販機の場所の質問が目立つため、確認を行い返答に備えた。次回へも申し送りをしておく必要がある事項である。また、昨年まで当日参加者に氏名と住所（県名）、立場を記載していただく用紙が連盟表形式であったが、今年は単票形式となっており、昨年の報告書で指摘した事項が改善されていた。

混雑する時間には記入場所（記名する机と椅子）が用意され、こちらも良い対応であったと感じた。講演内容については、報告者は受付担当であったため、聴講が出来なかったが、時々会場の様子を確認に入った際の雰囲気では多くの席が埋まり、皆さん熱心に聴いている様子が伝わってきた。また、今回もアピール文は厚労省・医師会・社会・患者に対するアピール文が採択された。アピール文は会場で厚労省と医師会に手渡された。

細胞検査士会ががん患者大集会への協力をさせていただいて数年以上経ち、細胞検査士会が協力団体として認識されていると感じる。協力する場合の、組織的な手順も円滑となってきており、今後とも主催者の方々と良好な関係が持続できるように、環境その他を整備していく必要があると感じた。そして私達はがん患者の方々の意識、環境の変化や願いを知り、さらに細胞検査士を認知していただけるような活動を継続的に行う事が大切だと思った。

文責　細胞検査士会 渉外委員会
吉田志緒子